

提案名	山と工務店・建築家の協働による「現代町家」システム 「近くの山の木で家をつくる会」	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	町の工務店ネット	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

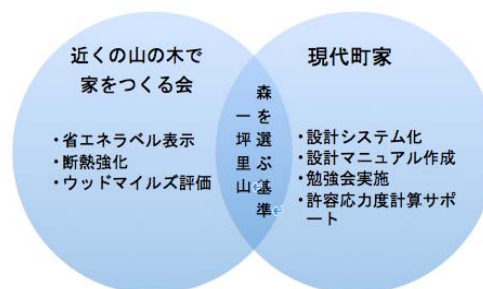
町の工務店ネットからは2つの提案を行っているが、共通するのは地域工務店が取り組むことに加え、工務店が森を選ぶ独自の基準(後述)を定め、その基準を守る山から供給させる材料をつかうことを宣言したことである。

平成 21 年度の採択でも盛り込んだ「一坪里山」の提案や、「現代町家」における地域の町家因子を発掘すること、「近くの山の木で家をつくる会」ではウッドマイルズレポートによる「近くの山」の優位性を示すことなど、地域アウトルキー(自給自足圏)という考え方に基づいて本提案を行った。

■提案内容

『山と工務店・建築家の協働による「現代町家」システム』では、設計・構造をルール化しながらも、自由度を持ち地域性のある住宅をつくるためのマニュアルや勉強会を整備した。

「近くの山の木で家をつくる会」では、住宅省エネラベルの表示、断熱強化の独自基準の設定などにより、前年度提案から性能の底上げを図った。



工務店が森を選ぶ4つの基準

1. 放置林の森の木は用いないこと
2. 切捨て間伐の森の木は用いないこと
3. 森の土壌劣化を防ぐため、30~40年生で皆伐する森の木は用いないこと
4. 「百年の森」を生むため高密度路網に取り組む森の木を用いること



この基準を守る林業家と提携し、恒常的な関係を結ぶことで、材料を供給する山が持続可能な経営を行うことに寄与する。

いえかるてによる住まい手との継続的關係

第三者による住宅履歴「いえかるて」情報から、施工後のメンテナンス訪問時期を適切に告知し、新築後に途切れがちな工務店と住まい手の関係を維持することで、住宅の長寿命化に寄与する。

ネット上でのメンテナンス情報の提供

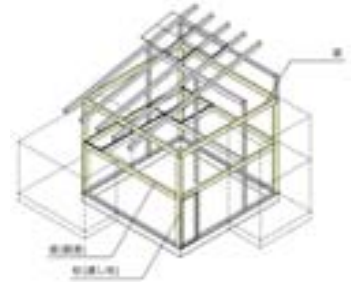
住まいネット新聞「びお」にて、住宅の各部位の経年によるメンテナンスの連載を行う。当事業の住まい手だけでなく、広く一般に「きちんとお手入れをする」ことの重要性や楽しさを訴求する。

一坪里山によるまち並みの提供と地域植生の保護育成

全国均一の「緑化」ではなく、地域にあったものを保護育成する「一坪里山」で、まち並みに本来あった風景を供給する。

軸組材の規格化(現代町家)

構造軸組部材(スケルトンアイテム)の数を絞り込んでいる。ベース四隅の通し柱とそれを繋ぐ8本の梁はすべて同じ寸法で構成することなどで、山や工場に計画的に生産、在庫でき、システム化された設計を可能とした。



現代町家のスケルトン

変化に対応するワンボリュームの空間(現代町家)

部屋と部屋をつなぎ合わせる「間取り」のプランニングを行わない。最大のベースである 6M×6M の場合でも、室内内部に必要な構造要素は柱一本だけの大空間が確保出来るため、将来にわたっての可変性に富む。

マニュアル・ツール作成と勉強会(現代町家)

設計・構造ルールを定めたマニュアルや積み木を使ったプランニングツール作成した。これを元に、各地で勉強会を開催し、参加工務店・システム考案の建築家との交流からシステムの深化をはかる。



プランニングツール

環境性能の向上(近くの山で家をつくる会)

町の工務店ネット基準として、断熱性能をワンランク上の地域での省エネ等級4相当とするとともに、住宅省エネラベルの表示、CASBEE 評価 S ランクを目指す。

ウッドマイルズレポートを全戸について行う (近くの山の木で家をつくる会)

森を選ぶ基準に加え、全戸でウッドマイルズレポートを作成する。CO2 削減などについての国産材の優位性を示す。



マニュアルを使った勉強会

■提案者からのコメント

「町の工務店ネット」は、独立自営工務店を標榜する工務店の集まりである。フランチャイズとは異なり、各社はすべて自らの判断で集客し、設計し、施工する。「現代町家」についてはシステム化・ルール化をしているが、このシステムでの実施そのものを含め工務店の判断に委ねている。

新築から大規模な改造工事までを行える工務店の存在価値は、長期優良住宅の時代こそ求められる一方で、様々な業種の参入もあり、その将来は楽観視出来るものではない。いえかるて等を活かし、工務店が継続して住まい手と関係を保ち続けられるよう努力したい。